

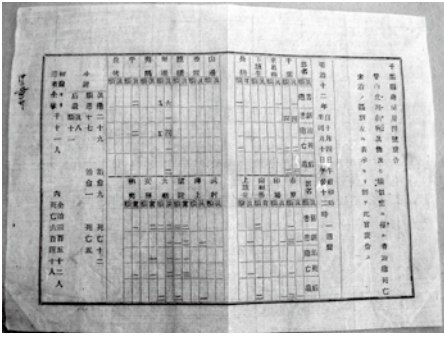
中善寺村文書について(二)

(NO. 354)
平成27年10月

前回(平成26年4月1日号)紹介した中善寺村史料の中で、もう1点興味深いものがあります。それは「千葉縣衛第三十四號廣告」と題する印刷物で、主

文には「管内虎列刺病眞性及ヒ類似症に罹ル者治癒死亡ニヨリ未治ノ區別左ニ表示セリ因テ此旨廣告ス、明治十二年自十月四日午前初時至同月十日午後十二時」とあります。すなわち、明治12年(1897年)の10月4日から10日までの1週間のコレラ患者の記録です。

日本で最初にコレラが流行したのは、文政5年(1822)



▲千葉縣衛第三十四号廣告(中善寺村文書)

のことでした。次に流行したのは開国後の安政5年(1858)で、江戸だけでも20万人以上が死亡したといわれています。近代に入ると、明治10年(1877年)に、再び東京を中心

に大流行しました。しかし、明治政府が推進したコレラの防疫対策は、一般の人々にはまだ理解されていませんでした。感染の拡大を防ぐために設置されたコレラ避難院は、生き肝を抜かれる場所とのデマが広がっており、医者が悪魔のように見做されることもありました。例えば

明治10年11月には、佐倉順天堂の出身で、現在の鴨川市内で医業を営み、コレラ防疫に努めた西洋医の沼野玄昌(天保11「1840」生)明治10年「1877」没)がこうした流言飛語を信じていた地元民に惨殺されるという事件まで起きています。この史料の付随する表によると、まず千葉郡では旧患が1名、新患は8名で、死亡者は4名となっています。旧患というのは、

10月4日以前に罹患していた者で、新患というのは、この1週間で、新たに発病した者を指すのでしよう。患者が多いのは周准郡、望陀郡、天羽郡で、周准郡では罹患者は9人(内1人死亡)、望陀郡は罹患者は8名(内4人死亡)、天羽郡では罹患者は5人(内2人死亡)となっています。地元の長柄郡では罹患者は1人で、死亡も1人と記録されています。内房に患者が多く、外房や県北にはほとんどいないのは、内房が、当時大流行していた東京に近かつたためかもし

れません。この1週間で、千葉県全体で46名がコレラとなり、死亡したのが17名もいるのに対して治癒したのは10人に留まっています。驚くべきは、明治10年にコレラの流行が始まって以来、千葉県下では1011人が罹患し、死亡したのは643名もいるのに対し、治癒したのは352名しかいないことです。この報告書は、当時の千葉県における、医療事情を示す好史料といえましょう。

これからの史料整理で、また新たな展開を期待しています。 茂原市文化財審議会委員

菅根 幸裕

文芸コーナー

俳句

送り盆香の煙と法師蟬

伊藤 薫

姫路城上りつめたる青葉風

河野 智子

短歌

共々に時を刻みて八十路越え

霜田 友恵

老いてたくまし友はうれしき

佐野 正伸

夢枕老いも若きも一つになって

仲村 美年子

ひぐらしの声聞きながら毎年の

吉野 千枝子

お盆に帰る父母の魂

高橋 由紀子

川柳

石鹼の匂いの中へ何時も母

風間 敬造

ロコミで売れる小さな道の駅

山野井 和音

万華鏡オンリーワンを覗かせる

稲子 勝久

パズル解く脳に一夜が速すぎる

大井 康章

おみこしの担ぎ手馴れたボランティア

大久保 稔

呆け防止除去を急かせる脳のゴミ

小野 與四法

宇宙から冥王星の夢が降り

小野 與四法

モバリンの笑顔弾ける盆踊り

小野 與四法

寿命伸び年金医療縮むだけ

小野 與四法

●偶数月は「俳句・短歌・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。
●投稿は楷書をお願いします。作品・氏名にふりがなをふってください。

※俳句、短歌、川柳の原稿送付先
〒297-8511 茂原市道表1番地 茂原市役所秘書広報課宛「文芸コーナー」と朱書きしてください。

